



気になる測定結果を比べてみると・・・

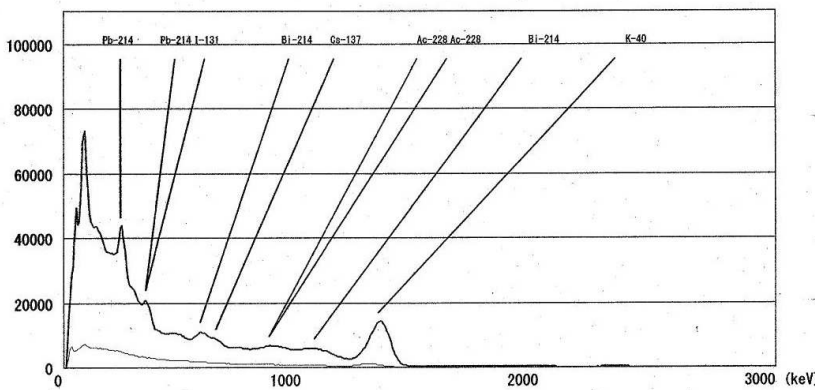
放射能測定結果

印刷日時：2018/04/02 19:24:51

測定場所	丹波橋測定室	測定者	佐藤和利
測定番号	T180331-01	測定機器	AT1320A (S/N:20680)
測定日時	2018年03月31日 14時55分50秒	測定時間	63000 秒
測定容器	Marinelli, 1l	試料重量	814 g
分析核種	2Cs+K	信頼水準	0.95
試料情報	灰 福井市(311以降の薪)		
セシウム合計	68.7 ± 10.0 Bq/kg		

判定	核種	放射能濃度	絶対誤差	統計誤差	検出下限値	ピーク検出
検出	Cs-137	25.6 Bq/kg	±5.1 Bq/kg	4.8%	0.89 Bq/kg	P
検出	Cs-134	43.1 Bq/kg	±8.6 Bq/kg	2.5%	0.81 Bq/kg	
検出	K-40	3650 Bq/kg	±730 Bq/kg	<1%	10.3 Bq/kg	P

【判定条件】 検出(検出下限値以上) 【ピーク検出】 P:ピーク検出 M:同一ピークに複数核種が存在 【ピーク検出条件】 サイドピーク 幅が1σ



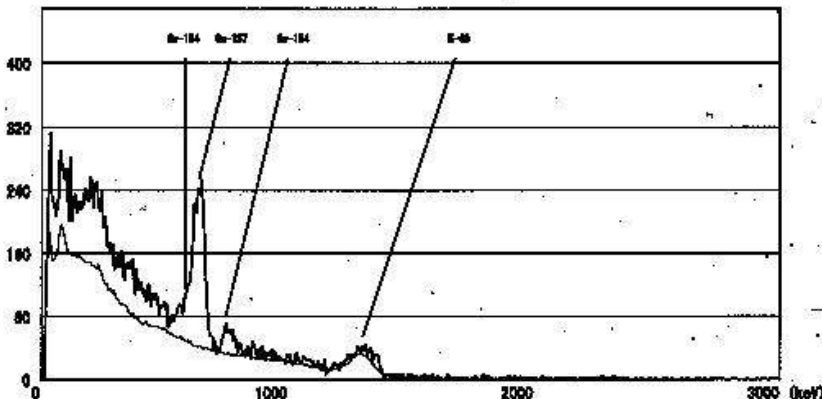
放射能測定結果

印刷日時：2018/03/21 11:25:12

測定場所	丹波橋測定室	測定者	真藤 祥陽
測定番号	T170806-01	測定機器	AT1320A (S/N:20680)
測定日時	2017年08月06日 14時17分03秒	測定時間	1800 秒
測定容器	0.1ℓ	試料重量	26 g
分析核種	1CaK	信頼水準	0.95
試料情報	福島県の灰		
セシウム合計	1.80 ± 0.30 kBq/kg		

判定	核種	放射能濃度	絶対誤差	統計誤差	検出下限値	ピーク検出
下限以下	I-131	37.3 Bq/kg	±58.8 Bq/kg	>100%	88.2 Bq/kg	
検出	Cs-137	1360 Bq/kg	±290 Bq/kg	7.6%	103 Bq/kg	P
検出	Cs-134	237 Bq/kg	±77 Bq/kg	25.6%	84.6 Bq/kg	P
検出	K-40	2750 Bq/kg	±1010 Bq/kg	30.8%	1250 Bq/kg	P

【判定条件】 検出(検出下限値以上) 【ピーク検出】 P:ピーク検出 M:同一ピークに複数核種が存在 【ピーク検出条件】 サイドピーク 幅が1σ



上の結果が、今年3月に測定した福井県福井市の薪の灰です。

セシウム137が
25.6ベクレル/kg

セシウム134が
43.1ベクレル/kg

という数値が出ました。

下の結果が、去年8月に測定した福島県福島市の薪の灰です。

セシウム137が
1360ベクレル/kg

セシウム134が
237ベクレル/kg

と高い数値が出ました。

2つを比べてみると、福島市の灰のスペクトルは、放射性セシウムの大きな山がはっきり見えています。

今なお汚染が続いていることが明確にわかります。

一方、福井市の灰のスペクトルを見ると、セシウム134の方は放射性鉛と放射性ビスマスという天然核種の影響による誤検出と思われる。セシウム137はピークが検出されており、過去の核実験かチェルノブイリ事故の残留が考えられます。25.6ベクレル/kgは、灰としては低い方ですが。

どちらも天然核種カリウム40が高濃度に濃縮されています。身体にいいとは言えません。福井市の灰も、吸い込まない方が良いと思います。(S)